

3領域	6年間のゴール(ねらい)	年間目標〔令和4年度〕	活動		活動の評価		%	年間目標の評価	次年度の目標	
					点数	理由				
共同体作り	一人ひとりが神様から愛されているかけがえのない存在であることを感じられるようになる	お友達の思いを受け止め受け入れることができる	年長	相手の気持ちを尊重し行動する。	年長	4	泣いている子、困っている子を助ける場面も見られたが、自分の思いを通して相手の気持ちに気付かない様子も見られた。	40	相手の意見を聞き入れず、自分の意見を強く主張していた為。	《目標》お友達の思いを受け入れる 《活動》 年長→自分と他者の思いの違いに気付く。 年中→相手の気持ちを大切にす。 年少→相手の存在に気付く。
			年中	相手の気持ちを大切にす	年中	4	チクチク言葉とフワフワ言葉を実践していき、相手がどう思うかを子ども達と一緒に考えてきたが、一部の子ども達には積み重ねが難しく上手くいかなかった。	75	困っている友達や泣いている子ども達にも寄り添って言葉掛けをしていたり、周りの友達皆で問題を解決して受け入れていた。	
			年少	相手の存在を認める。	年少	3	皆と遊ぶ姿が見られた一方、特定の気の合う友達とだけ遊ぶ子もいた。	70	話をすると、友達の思いを理解し受け入れることが出来るが、一部出来ない子もいた。	
宗教・精神的	子どもたちが自主的に祈り自分と他者を大切にすることができるよう宗教教育の充実を図る。	お祈りを大切にする	正しい十字架のしるしを身につける目的をもって祈る。		年長	4	例年に比べて正しく十字架を切れている子が多かった。友達のことにに関して自発的に祈る姿が見られた。	60	必ずしていたが、形式的だった。	《目標》祈りの意味を知る。 《活動》お祈りを大切にする。
					年中	4	十字架の言葉の意味を子ども達に伝え、1つ1つの動作を丁寧に伝えるように言葉掛けをしてきたが、自主的に他者を思い合って祈ることをあまりしなかった。	85	友達同士、心を合わせて取り組めるように心掛けた。	
					年少	3	目的を持って祈ることは出来ていたが、十字架のしるしは身につけていない子もいた。	80	友達のことを思って祈ることが出来た。	
文化・教育	職員はドンボスコの予防教育法を実践できるようになる。	子どもたち一人ひとりとゆったり過ごす。	子どもの要求に応えられるように準備する		年長	5	子どもの興味・関心を良く理解し、事前に準備することが出来ていた。	50	行事の練習があり、時間に追われることが多く全体的にゆったりすることが出来なかった。	《目標》ドンボスコの予防教育法を理解する。 《活動》各自学びを深める。
					年中	4	準備物に関しては綿密に何度も話し合い、余裕を持って取り組んでいた。子ども達の声を拾い都度対応出来るようにしていた。	80	1人1人を大切にし、素直に愛されていると感じられるようにスキンシップや言葉掛けに取り組んできた。	
					年少	4	子どもの気持ちを尊重し、普段のお仕事や保育に繋げることが出来ていた。	90	1人1人を大切に丁寧に丁寧に関わることが出来ていた。	
	子どもたちが、いつ、だれにでも適切な挨拶ができ自分の言葉で気持ちを表現することができるようにする。	挨拶を行う意味を知る	姿勢を正して挨拶ができるようになる		年長	4	入退室の挨拶や自分のタイミングで「ありがとう」「ごめんなさい」を言うことが出来ていた。	100	挨拶の意味をしっかりと伝えることが出来ていた。	《目標》挨拶を行う意味を知る。 《活動》姿勢を正して挨拶が出来るようになる。
					年中	3	都度声掛けをしていたが、中々浸透しなかったが、4月初めに比べると随分出来るようになった。	75	挨拶をする意味を都度伝えてきた。	
					年少	2	挨拶よりも話したい気持ちが強かった為、聞くことに重きを置いてしまった為。	70	挨拶を行う意味は知っているが、口にすることが出来ていない。	
社会的自立	子どもたちが日常生活の中で自信を持って最後までやり遂げる自立心と生きる力を身につけることができる環境をつくる。	一つのことを最後までやり遂げる力を身につける	次の行動に行く前に事前の活動を終わらせる		年長	2	優先順位をつけられず、目の前のことから気が逸れることが多かった。	80	行事の全員参加は叶わなかったが、1人1人が自分のやるべきことをやり遂げた。	《目標》1つのことを最後までやり遂げる力を身につける。 《活動》次の行動に行く前に事前の活動を終わらせる。
					年中	3	活動に関して意欲的に取り組むことは出来るが、活動と活動の間の切り換えが苦手で、隙間時間を上手に活用出来ない。	90	目標に対して周りの意見を取り入れながら、最後まで自分の力でやり遂げられるようになってきた。	
					年少	4	良く出来たが、戸外遊びも出来るようになる必要がある。	95	何に対しても意欲的に取り組んでくれていた。	
	子どもたちが、自然や環境、人々とのかかわりの中で、社会のマナーを知り身につけられるようにする。	社会のマナーを身につけられるようにする。	ものや食べ物を大切にす		年長	2	食べ遊び、物の紛失が多かった。	60	園外保育に出掛ける機会が多く、体験を通して伝えることが出来た。	《目標》社会のマナーを身につけられるようにする。 《活動》物や食べ物を大切にす。
					年中	3	作ってくれた人の感謝の気持ちで1口チャレンジをしたり、物を大切にす等伝えてきたが、給食に関して完食出来る子が少なかった。	85	今自分が何をすべきか子ども達に都度問いかけ周りの状況を良く見て話し合ってきた。	
					年少	4	食べ物に感謝することは出来たが、物は個人差があった。	70	始めは声掛けをしていたが、次第に自ら言えるようになった。	

NOTE: 活動の評価の点数《5—とてもよくできた(目標達成のために大きな効果が見られた) 4—よくできた 3—できた 2—あまりよくできなかった 1—できなかった》目標の評価の点数は、達成度をパーセントであらわしてください。(100パーセント達成できた場合は100)